

## 第1回日韓社会政策定例フォーラム：低出産・高齢化の衝撃と対応

2017年2月23日、韓国保健社会研究院と本研究所の共同主催で、第1回日韓社会政策定例フォーラムが「低出産・高齢化の衝撃と対応」をテーマに、ソウルのコリアナホテルで開催された。これは両研究所の連携の一環として企画され、第2回は東京で開催される予定である。第1回のフォーラムでは、両研究所所長の基調講演に続き、四つの個別セッションに分けて報告と討論が日本語・韓国語の同時通訳付きで行われた。講演・報告者と題目は以下の通りだが、韓国側の題目は筆者がなるべく直訳に近い形で訳したものである。

### 基調講演

金相鎬「韓国の低出産問題の現況と政策課題」

森田朗「少子高齢化社会における都市と地方」

### セッション1 低出産・高齢化と人口政策

李三植「日韓間の人口格差と収斂化」

鈴木透「東アジアの人口変動：長期的視点」

勝又幸子「日本における少子化対策の現状と課題」

### セッション2 ライフサイクル別に見た家族形成と就業

申潤貞「ライフサイクル別に見た韓国女性の結婚・出産・就業形態の変化」

菅桂太「日本における家族形成タイミングと女性の就業」

### セッション3 長寿社会の現況と課題

金ドンジン「韓国老人の健康不平等の現況と課題」

林玲子「死亡率・健康度の日韓比較」

### セッション4 長期療養保険制度

李ユンギョン「韓国の長期療養保険：10年の成果と課題」

小島克久「日本の介護制度の現状と課題」

講演・報告者はすべて韓国保健社会研究院と本研究所の職員だが、討論者には韓国の大学教授、官僚、新聞記者など多彩な顔ぶれがそろい、活発な討論が行われた。また基調講演とセッション1の内容は、翌日の中央日報で報じられた。 (鈴木 透 記)

## アジア開発銀行研究所 (ADB) 「開発途上のアジアにおける政府社会保障プログラムの効果」に関するセミナー

2017年3月7日(火)～9日(木)、インドネシア・ジャカルタにて、アジア開発銀行研究所 (ADB) がインドネシア財務省との共催で、「開発途上のアジアにおける政府社会保障プログラムの効果」に関するセミナーを開催し、筆者が参加した。セミナーは、社会保障、特に年金と医療保険制度について、その貧困削減と経済成長への影響、財政政策と費用推計、人口変動に応じた持続可能性